

指導日時・教室 平成19年5月29日(火) 3限目 教室名 16H
 対象生徒・集団 普通科 1年生 41人(内訳16H 41人)
 科目名 国語総合 (単位数 6)
 使用教科書 新訂国語総合古典編(出版社名 第一学習社)

1 単元(題材)名 古文編 随筆(一) 徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」

2 単元の目標

- ①古典の基本的な文法事項や語彙を習得する。【知識・理解】
- ②現代文教材との共通点を考える。【読む能力】
- ③作者の論の組み立て方や例示の巧みさを理解する。【読む能力】
- ④効果的な具体例に基づいた意見文を書く。【書く能力】

3 指導に当たって

(1) 生徒の状況

入学して間もないこともあり、学習に対して非常に意欲的である。オリエンテーションを通じて古典の学習の仕方についてもよく理解している。予習状況も良好で、家庭学習と授業とのサイクルが円滑に行われている。当クラスは授業の開始前に必ず「お願いします」という挨拶が自発的になされるほど、元気なクラスである。ただし、国語という教科に限らず、個々の知識や理解力に優れたものがあっても、それがつながらないという問題点があることは否めない。

(2) 指導方針・方法

本格的な古典の学習は始まったばかりであり、基礎基本の定着に主眼をおくことは言うまでもない。ただし、助動詞をはじめとする文法事項の習得や、基礎的な語彙の確認に終始すると、授業自体が平板なものになりかねない。もちろん作品の背景の説明や、作家論的なアプローチも可能である。しかし、PISA型読解力が叫ばれている昨今、古典教材においてもPISA型学力の読解過程を意識した学習活動が可能なのではないかと考えた。また、現代文と古典の知の連絡や、意見文作成までの敷衍を考えることは、ささやかな試みではあっても、知の総合化を意図するものでもある。

(3) 教材選定の理由

徒然草は、高校1年生の古典入門教材の定番とも言えるものである。筆者の、日常的な事象に対する観察眼や洞察力、そこから導き出される思想には、生徒に是非触れさせたいものがある。国語という教科が、読解力を育て、その先に思考力を見据えるものであるならば、日常において、どこまで自己の目でさまざまなモノ・コトを捉え思索できるかということに自覚的であるべきである。その意味で、さまざまな可能性を胚胎させた教材と言える。まさに、「どのように書かれているか」を考える格好の対象である。

4 単元の指導計画(総時数4時間)

第一次 徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」の読解(2時間)

(音読。助動詞を中心とした文法事項と基礎的語彙の習得。口語訳。)

第二次 現代文との構造的比較と具体例の創作(2時間)

1時 現代文との構造比較。具体例の創作。筆者の文章に対する評価。… 本時

2時 意見文の作成。

5 本時 (総時数4時間中 第3時)

(1) 本時のねらい

- ・文章全体の構成を理解する。【読む能力】
- ・主題を的確に読み取った上で、自己の体験と重ねあわせようとする。【関心・意欲・態度】

(2) 準備・資料等

教科書、ノート、古語辞典、ワークシート、
徒然草四十九段本文・口語訳、徒然草二百三十一段本文・口語訳

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5分	導入 前時の学習の ふりかえり	当該章段の口語訳を確認する。	既習の助動詞について、適宜質問する。	
15分	展開 主題の理解	第四十九段との共通点を考え、ワークシートに記入する。 二つの段落の関係を考え、ワークシートに記入する。	第四十九段については口語訳のプリントを用意する。 数人を指名し発表させる。 「寸陰愛惜」「出家」の思想について補足説明する。 現代文の授業と関連づけ、評論文の構成を思い出させる。 数人を指名し発表させる。	二つの段落の構成を理解している。 【読む能力】 (ワークシート)
20分	例示の創作	自分の体験から、具体例を考え、ワークシートに記入する。 第二百三十一段の主張を導けるような例示を考え、ワークシートに記入する。	第二段落を導けるような、日常的な体験を想起するように指示する。 第二百三十一段の主張箇所のみを提示する。 生徒の記入状況をみて、本文を提示する。	主題に合う自分の体験を考えようとしている。 【関心・意欲・態度】 (観察) (ワークシート)
5分	まとめ 兼好の文章に対する評価	兼好の文章に見られる例示と、そこから導かれる主張についての感想をワークシートに記入する。	自分の創作した例示と比較しながら、兼好の文章についての感想を自由に書かせる。	